

1:1 人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、

1:2 私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。

1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自身を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。

1:5 この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

1:6 私は驚いています。あなたがたが、キリストの恵みによって自分たちを召してくださいました方から、このように急に離れて、ほかの福音に移って行くことに。

1:7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたを動揺させて、キリストの福音を変えてしまおうとする者たちがいるだけです。

1:8 しかし、私たちであれ天の御使いであれ、もし私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音に反することを、福音として宣べ伝えるなら、そのような者はのろわれるべきです。

1:9 私たちが以前にも言ったように、今もう一度、私は言います。もしだれかが、あなたがたが受けた福音に反する福音をあなたがたに宣べ伝えているなら、そのような者はのろわれるべきです。

1:10 今、私は人々に取り入ろうとしているの

でしょうか。神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人々を喜ばせようと努めているのでしょうか。もし今なお人々を喜ばせようとしているのなら、私はキリストのしもべではありません。

パウロが手紙を書くとき、または誰かと交わりをするときには、自分が誰であるのかをはっきりと自覚していました。すなわち、「人間を通して」ではなく「父なる神」によって使徒となった自分です。

私たちもそれぞれに教会の奉仕、社会的な仕事や立場、家庭や地域の関係が与えられていますが、それらを「人の手」によってやらされたと思っているなら本当の動機が生まれてきません。「父なる神」によって与えられてことを知り、確信と感謝と自信を持っていきましょう。

パウロはその信仰ゆえ主の福音に関しては、強い信念を持っていました。確かに「福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら」のろわれるべきです。永遠の命を損なうことになるからです。

教会では寛容や赦しを大切にしますが、それは救いをいい加減にするのとは違います。間違った福音や間違った「御心」にまでも寛容であるなら、それは人を永遠に殺すことになるのです。つまり永遠の命を奪うということです。もちろん人を傷つけることに関しても同じです。

互いに主によって立てられていることを忘れなようにしましょう。また主によって教会が存在していることも覚えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

